

特集

登別温泉開湯150年を祝う



7月20日、江戸時代末期に開湯した登別温泉が150年を迎え、この記念すべき年を祝い、開湯150年記念式典と登別温泉バイパス完成記念祝賀会のオープニングイベントが行われました。今月号では、記念式典と開湯150年記念の催しの様子ををご紹介します。

噴き出す温泉の源

～ 泉源公園オープニング～

7月20日(日)10時、スピーカーから流れていた小川のせせらぎや小鳥の鳴き声に、太鼓の音が混じり、ドドンと音量が一変して、地響きとも思える音に変わった途端、剣を振り上げた青鬼、金棒を振り回す赤鬼が登場。旧登別パラダイス跡地に出来た泉源公園で、鬼たちの宴が始まり、温泉開湯150年を祝うイベントがスタートしました。

青鬼、赤鬼が愛した自然の恵み、勢いよく噴き出す温泉の源は、150年の間、多くの人に健康と癒やしを与えた登別の宝でもあります。鬼たちが案内人となって、登別温泉の宝をたつぷり味わい、長寿と若々しい肌を保つ6人の地元のお年寄りを公園の中央に導き、テーパーカットが行われ、開湯150年、道俱多楽湖公園線のバイパス開通、泉源公園の開設を祝う式典が始まりました。

泉源公園は、第一滝本館横、旧登別パラダイス跡の三差路の間に

建設され、すり鉢状の階段を降りると広場が広がる設計となっています。メインの間欠泉は奥に洞穴のような入り口が見え、そこを下っていくと見えてきます。

150年の歴史を支えた登別温泉の源ともいべき温泉の元、間欠泉は3・4時間の間隔でグツグツと煮立った地獄を連想させる不気味な音を立てながら、最大8畳の高さまで吹き上がり、その量は、約2千リットルにも及ぶとも言われています。



▲間欠泉の噴き始め

安全上の配慮から、高さ4畳のところにて天井を設け、がっちり周囲を囲っています。もうひとつ立ち込める湯気の間から噴き出す間欠泉は、間近で自然の驚異を感じることができる新たな観光名